

もうすぐ旧暦のお盆がやってまいります。

日本でお盆の行事は、古く飛鳥時代 西暦六五七年より行われているといわれています。江戸時代には、七月十三日から十六日までをお盆として先祖供養を行っていましたが、明治六年、新しい暦こよみ となつて、そのまま七月盆しちがつぼんの地域と、月遅れや旧盆きゅうぼんといふ言い方をする、八月盆はちがつぼんの地域に分かれたのです。

「お盆」は、“ウランバナ”や“ウルバン”という、インドや中東の古い言葉がもとといわれ、それを盂蘭盆（うらぼん）と音に当てはめた言葉です。

一般にお盆といふと、お墓参りをし、迎え火を焚いて、先祖の魂たましいを家に連れて帰り、特別な棚たなに祀り、食べ物などを供えて供養する行事とされています。大事な先祖供養を怠おこたらないように仕事を休み、供養に励むためにお盆休みがあるとも考えられます。

休みといへば、「盆と正月が一緒に来たよう」という喩えたとがあります。意味には二つのとらえ方があると思いますがいかがでしょうか……。

「お盆も正月も、親戚一同が集まって食事をする楽しい行事だ」と思ふか、それとも「お盆と正月と多くの準備が必要な大事な行事が重なつてとても忙しく大変だ」と思ふのかです。

実は、どちらも正しい意味なのです。現代にくらべて仕事に休日もつを設ける習慣がない時代は、正月とお盆にだけが休みであったため、人々はその休みを心待ちにしていました。心と体を休め、先祖に感謝をささげ、ご馳走を食べてまた次の休みを期待することで仕事に励むという、日本人の生活でした。

現代では当たり前の「週休二日」や「ゆとり」といふ考えはつい最近のことです。

また、お正月と違ひお盆休みは、企業によつて対応が異なります。八月十一日が祝日になり連休にする企業もあれば、平日は官公庁かんこうちょうや銀行などは仕事をしています。ましてやサービス業にお勤めの方は、それこそ「盆と正月が一緒に来たよう」な忙しさでしょう。また、墓参りや故郷への帰省に出かけるにしても、車は渋滞で嫌だから家でのんびりしようと思ふ方もいることでしょう。

『 禅のころ - 曹洞宗 - 』

多種多様な現代では、さまざまな方がいらっしゃいます。中には、お盆休みは単なる休日だという方もいます。

このような中、私たち仏教徒にとって「お盆」は、亡き方々やご先祖様を想い、お釈迦さまのみ教えを守り、苦しみを抱えている人々が少しでも楽になるように願うことが、正しい姿なのではないでしょうか。

— 終 —